



2017年(平成29年)

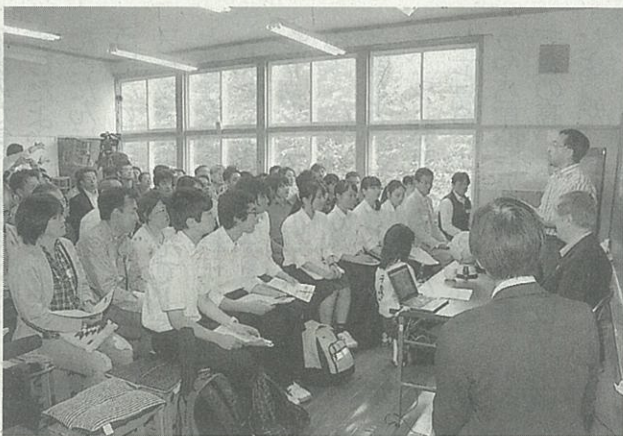
6月11日

日曜日

にゅうばい
入梅

日本海見渡せば佐渡が優位

「学校蔵」特別授業 120人学ぶ



学校蔵特別授業を聴く参加者たち

佐渡市の酒造会社、尾畑酒造主催の「学校蔵プロジェクト」特別授業が10日、同市西三川の旧市立西三川小学校舎であった。定員80人を大幅に上回る120人が授業に聴き入った。

計4時間の授業があり、このうち1時間目のテーマが「世界から佐渡を見る」。講師役の日本総合研究所主席研究員の藻谷浩介氏とライフネット生命保険会長の出口治明氏の2人が、アジアや米国から見た日本海、佐渡について歴史的、地理

的な特異性を話した。

藻谷氏は「日本人が授業で教える世界史は、日本人

のストーリーで考えられた世界史。冷戦時代の日本は米国一辺倒で太平洋側が栄えたが、冷戦が終わった現在は、それがなくなってくるかもしれない」と指摘した。一方、出口氏は「日本海を見渡すと、一番大きな港は韓国・釜山港だ。その釜山港と佐渡は対向している。物流の交易で日本海を経由して津軽海峡を抜けるルートもある」と佐渡の地理的な優位性を話した。

授業では、小学校の授業を再現させるため、授業開始のチャイムを鳴らして、司会の同社専務尾畑留美子さんの声に合わせて、全員が起立し、頭を下げた。